



■ グリニッチ便り ■

Japanese Gospel Church of Greenwich

No. 167, 2013年12月号

グリニッチ福音キリスト教会

「きよしこの夜」とサザエさん

牧師 立石尚志

わが家では行儀が悪いことを重々承知の上で夕食時、サザエさんを見ています。以前は子供たちの祖父が日本でテレビ放映された物をDVDに録画して送付してきていましたが、時代も変わり、今ではYouTubeです。著作物をパソコンで見るのも若干抵抗があるのですが、娘がサザエさんの大ファンであり、少しでも子供たちの日本語保持に役立つなら、という思惑と、とにかく昔のものから最近のものまで幅広く見ることができ、日本社会の変遷、価値観の変化などが読み取れ、社会的な学びにもなる！という思いからつつい見せてしまっています。

近年の作品では、サザエさんだけが黒髪と終戦直後流行したらしい髪型を

キープしている中、登場する若いお母さんたちの髪色はみな明るめです。野球少年だったカツオ君は今ではサッカー少年へと変化をとげ、かつてヘビースモーカーだった波平さんもマスオさんもいつの頃からか禁煙家になっています。不動産屋の娘の花沢花子さんは原作漫画には登場しませんが、アニメでは不可欠な人物、実力派、強い女性、の代表選手みたいなどころがあります。さらに「躰」についても体罰、お仕置きがなくなり、対話中心の問題解決へと移行しているように見えます(どこの大学生が論文を書いているかも知れませんね!)

そんな中、未だYouTubeでお目にかかっていないのは、いその家が家族そろって大まじめにクリスマス賛美歌の「きよしこの夜」を歌っているアニメ

のエピソードです。子供の頃実際に見たのですが、カツオ君が例の声で「す〜くい〜のみ〜こは〜」と歌っていたのが今でも耳に残っているのです。サザエさんのような「日本的」な家庭でなぜ賛美歌なんか歌うのだろうか？と子供ながら不思議に思ったのをはつきり覚えています。近年のサザエさんでは、波平のご先祖様の霊が出てきたり、家族そろって墓参りに行ったりするなど純日本風の家族としてサザエさん一家描は描かれています。実はこの「きよしこの夜」については、社会の変遷、というのとは異なった理由があったと考えた方がいいのかも知れません。というのも、実は「サザエさん」の原作者、長谷川町子さんはクリスチャンだったのです。(裏面に続く)

「神様が用意してくれた道を信じて」 Y.E.姉 (グリニッチ教会OB)

2010年4月、ふと手にしたグリニッチ教会でのイースターイベントのちらしから教会に導かれ、2012年4月、2年間のグリニッチ教会生活が終わりました。

なにかに困っているから、なにかに頼りたいから、というような具体的なきっかけはありませんでしたが、日本にいるときから教会に行ってみようという思いもあったし、また実際に教会に行ってみると礼拝後はとても心が穏やかになりました。教会の居心地もよく、教会員の方々との楽しい交わりもあり、自然と毎週礼拝に行くようになりました。

2010年夏、O家との出会いがありました。O家の御主人は私の主人と同じ会社で、子供の年齢も近く、なによりもクリスチャンとしてしっかりと歩んでいらっしゃるご夫婦との出会いで、励まされ、ますます教会生活が楽しくなりました。そしてごく自然に神様と共に生きてゆきたいと思うようになりました。

2010年12月主人と共に受洗し、特に難しい問題もなく過ごしていました。すべてがとても順調でした。しかし、2011年秋ごろから私の視点から見ると「うまくいかない」と思うことが続きました。祈ってきたこと、すべての答えがNOとされているようでした。唯一、うまくいっていたことは娘の学校生活でした。初めてできたベストフレンドと呼べる女の子のお友達がきっかけとなり、本当に学校生活を楽しみ始めました。

そんな中、予想していたよりもかなり早い帰国の話がちらほら聞こえてきました。私自身もやっと慣れたアメリカにもっといたい、楽しくなってきた教会での奏楽奉仕ももっと続けたいという気持ちもあったし、なによりもうまく回り始めた娘の学校生活を続けさせてやりたいと思うと、悲しみでいっぱいになりました。考えれば考えるほど自分の視点からしか見ることができなくなりました。

2012年4月、帰任が決まり、主人は一足先に日本に帰りま

した。そしてすぐに義父の体調が思わしくないと連絡がきました。病気について全く知らなかったのととても驚きました。子供たちと私の本帰国が間近に迫っていたのですが、義父の状況は日々厳しくなっており、残された時間はかなり少ないようでしたので、一週間の予定で一時帰国しました。そんな中、夫が春に参加した「父の学校」でお世話になった福澤満雄先生に病院に来ていただき、義父にお話をさせて頂く機会が与えられました。義父の体調、私たちの一時帰国、そしてなによりもお忙しい福澤先生のスケジュール、すべてが揃うのは本当にピンポイントだったのですが、神様が整えてくださり、義父がしっかりと話せたギリギリのタイミングでしたが、はつきりと信仰告白をしました。ハレルヤ!

義父ももっと一緒に時間を過ごしたかった、孫たちの成長を見せたかったという気持ちは否めませんが、罪を赦され、永遠の命を与えられて天国にいる義父にまた再会できるという希望は私たちの励みであり、楽しみです。

このことを通して、神様はすべてをご存じで、私とは全く違う視点から導いてくださるのだからなにも心配することはない、信頼し、用意してくださる道をただ進んでいけばよいのだとわかりました。聖書に書いてある通りでした。

心を尽くして主に頼り頼め。自分の悟りに頼るな。自分の行くところどこにおいても主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。(箴言3:5-6)

帰国後、本郷台キリスト教会に導かれました。グリニッチと違いとても大きな教会で、初めは自分の居場所がないように感じてしまいましたが、娘が本郷台のチャーチスクールに通うことになり、学校を通じて、またファミリーという小グループを通じて、ともに祈り、励まし合える友人がたくさんできました。悲しくて残念な気持ちで日本に帰国しましたが、神様はすべてを整えて用意してくださっていました。



